

# 『時事直言』 No.1788 2026年2月16日国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019) [Youtube] 増田俊男チャンネル/



## 中道改革(リベラル)連合小川新代表に告ぐ

時事評論家 増田俊男

「右でもない、左でもない(立憲でもない公明でもない)中道改革(リベラル)連合」(以後中道と呼ぶ)は最悪の選択であった。

もともと寄り合いの所帯の立憲と生粋の公明をくつつければどうなるか自明のこと。

選挙経験のある政治家なら決してしない、又出来ない選択である。

斎藤(公明)は「どっちに転んでも損はない」と見ていたから許せるが、野田は過失致死の有罪である。野田は一体誰に洗脳されたのかの疑問が残る。

立憲は 144 名からほとんどの大物を失い 21 名、公明は全員当選の 28 名。

2 月 13 日中道の代表選で過半数の公明は候補を送らなかった。

公明は「このままでは損をする」から中道から離脱して福祉政党の再建の準備をしている。

新代表に小川淳也が選ばれた。

小川と言えばかつて消費税 25%を主張するなど突拍子もないことを言って物議をかもして名を売ってきた御仁。

私の観るところ小川の「怒り方」のカリスマ性は一流である。

野党での出世は怒り方の得手不得手にかかっている。

中道の小川代表の選択は正しかったが、「どっちつかず」では時勢に合わない。

公明は「福祉政党」だから「怒り政党」にはそぐわない。

公明はやがて分離して「福祉公明党」を再建するだろう。

国会で政党として何も出来なくなった小川はどうしたらいいのか。

かつての 55 年体制(自由党・経営者対社会党・労働者の二極体制)を目指すことだ。

安全や外交のことなど脇に置いて、一途に労働者の為の「労働党」に徹することだ。

小川は国会では何も出来なくても支持団体の「連合」を動かせる。

日本の最低賃金は 1,221 円(東京)、ニューヨークは 2,600 円、パリは 3,400 円。

10%のベースアップを掲げて、「歌(実力行使)を忘れたカナリア(連合)」を焚きつけることだ。

イエロージャケット(フランスの労働組合)がパリを麻痺させるように、一日でもいいから東京を麻痺させてみたらどうだ。

小川は元気だ、だが何の為の元気なのか考えなくてはならない。

当面は来る国会の代表質問で高市が心臓麻痺を起こすくらいの怒りをぶつけることだ。

小川は 21 議席の蟻、高市は 316 議席の巨象。

蟻が象の足の指又に深く侵入し赤肉を噛めば象は倒れる。

負けた者が勝ち、勝った者が負けるのは世の常。

私の小冊子 Vol. 156 お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。